

## 解説 1

英文は暗唱できるまで繰り返し音読すること。

- 英語におけることばの単位を、【文字 < 語 < 句 < 節 < 文 < 段落 < 文章】と定義する。
- 文字 (character, letter) : 1つ1つの文字。 ex.) a, b, R など
- 語 (word) : 意味を持つ文字の集まりの最小単位。  
ex.) example 「例」、I 「わたしは」、give 「与える」、sleepy 「眠い」 など
- 句 (phrase) : 2語以上から成る意味のまとまりのうち、その中心が〈主語 + 動詞 (SV)〉の構造を持たないもの。  
ex.) a small dog 「1匹の小さな犬」、get up 「起きる」、on the desk 「机の上」、watching TV 「テレビを見ること」、to drive a car 「車を運転すること」 など
- 節 (clause) : 2語以上から成る意味のまとまりのうち、その中心が〈SV〉構造を持つもの。文の中心となる〈主節〉と、主節に従う〈従属節〉がある。  
ex.) when I was a child 「私が子どもだったとき」、(a book) that I bought yesterday 「私が昨日買った (本)」 など
- 文 (sentence) : 大文字で始まり、終止符や疑問符などで終わる、内容のまとまり。ふつう、1つ以上の節から成る。  
ex.) I broke my cell phone yesterday. 「私は昨日、携帯電話を壊してしまった。」  
What is your favorite TV program? 「お気に入りのテレビ番組は何ですか。」
- 段落 (paragraph) : 1つ以上の文から成る、文より大きな内容のまとまり。ふつう、改行と数文字分の字下げによって始まり、次の改行前で終わる。
- 文章 (writing, text, article など) : 1つ以上の段落から成る、段落より大きな内容のまとまり。筆者の思想や調査の成果などを述べたもの。

## A 演習 1 : 基本問題

下線部が句と節のどちらかを指摘し、さらに全体を和訳しなさい。

- Did we have a lot of rain last night? (句・節)  
「  
」
- He doesn't like playing basketball. (句・節)  
「  
」
- Please call me when you need help. (句・節)  
「  
」
- My plane is going to take off in an hour. (句・節)  
「  
」
- Everyone knows that friends are very important. (句・節)  
「  
」

## 演習 1 : 解答・解説

英文は暗唱できるまで繰り返し音読すること。

- 句「昨夜、たくさん雨が降ったのですか。」 ※ 〈SV〉構造を持たない意味のまとまりなので、句。時を表す〈副詞句〉。  
時を表す〈副詞節〉で、従属節。
- 句「彼はバスケットボールをするのが好きではない。」 ※ 〈SV〉構造がないので、句。「～すること」の意味の〈名詞句〉。  
4. 句「私の乗る飛行機は1時間後に離陸する予定だ。」 ※ 〈SV〉の構造を持たない句で、〈句動詞〉という。実践的には、is going to take off を動詞のまとまりとして考えるとよい。
- 節「助けが必要な時には電話してください。」 ※ 〈SV〉の構造 (you + need) を持つ意味のまとまりなので、節。  
5. 節「友だちはとても大切だということを誰でも知っている。」 ※ 〈SV〉の構造 (friends + are) を持つので、節。「～すること」の意味の名詞節 (従属節)。

## 解説 2

英文は暗唱できるまで繰り返し音読すること。

- 語（単語）は品詞に分類できる。ここでは文構造の理解に重要な品詞と、その役割を一覧する。
- 名詞：人、もの、ことを表す。代名詞、不可算名詞、固有名詞など、さまざまな分類がある。  
ex.) mind 「心」、travel 「旅」、you 「あなた（がた）」、furniture 「家具」、Rome 「ローマ」
- 動詞：主語の動作や状態を表す。主語や時制、態などの影響を受けて変化する。  
ex.) run 「走る」、mind 「いやだと思う」、sleep 「眠る」、investigate 「調査する」
- 形容詞：名詞を修飾する。前から修飾する限定用法と、後ろから説明する叙述用法がある。  
比較級、最上級がある。  
ex.) a beautiful (mind) 「美しい（心）」、enough (food) 「十分な（食料）」、  
deep (hole) 「深い（穴）」、deeper (hole) 「より深い（穴）」※比較級  
(His car is) fast(.) 「(彼の車は) 速い(。)」※叙述用法
- 副詞：名詞以外を修飾する。時や場所、理由、頻度、程度などを表す。比較級、最上級がある。  
ex.) deeply (moved) 「深く（感動している）」、(go) abroad 「外国に（行く）」、  
very (deep) 「とても（深い）」、(eat) enough 「十分に（食べる）」  
(Sound travels) fastest (through metals.) 「(音は金属中で) 最も速く（進む。）」※最上級
- 前置詞：名詞の前に置かれて、副詞句を作る。  
ex.) at (the station) 「(駅) で」、on (the wall) 「(壁) に」、in (a week) 「(1 週間) 後」
- 接続詞：2つのもの（語・句・節など）を接続する。等位接続詞と従位接続詞がある。  
ex.) (hot) and (delicious) 「(からい) そして (おいしい)」  
※等位接続詞 and が、形容詞の hot と delicious を、等位接続。  
(I moved to Osaka) when (I was three.) 「(3 歳だった) とき (大阪に引っ越した。)」  
※従位接続詞 when が、主節 I moved to Osaka に従属節 I was three を、従位接続。
- 【重要】 品詞の役割は、単語に限らず、句や節にもあてはまる。  
例えば、(a) beautiful mind は〈形容詞＋名詞〉から成る句だが、この句全体は名詞句。  
I moved to Osaka when I was three. の when I was three (従属節) は、〈時〉を表す副詞節。語・句・節の形にかかわらず、それぞれの品詞的な役割を意識することが大切。

## B 演習 2：基本問題 下線部の品詞を答え、さらに全体を和訳しなさい。

1. I write in ① my diary ② before I go to bed. ① ( )  
② ( )  
「  
」
2. ① A car accident happened ② in front of my house. ① ( )  
② ( )  
「  
」

## 演習 2：解答・解説

英文は暗唱できるまで繰り返し音読すること。

1. ①名詞（句）、②副詞（節）「私は寝る前に日記をつけている。」※ my diary 「日記」は、複数の語から成る名詞句。before I go to bed 「(ベッドに行く前に→) 寝る前に」は、〈主語＋動詞 (SV)〉構造 (I go) を伴うので、節。〈時〉を表す副詞節。
2. ①名詞（句）、②副詞（句）「私の家の前で自動車事故が起こった。」※ a car accident 「自動車事故」は、複数の語から成る名詞句。in front of my house 「私の家の前で」は、〈SV〉構造を含まない、〈場所〉を表す副詞句。

年 組 番 氏名

実施日 年 月 日

A	/5
B	/2

検印

## 解説 3

英文は暗唱できるまで繰り返し音読すること。

□ 文を、意味のまとまりで区切って理解するとき、〈文の要素〉と副詞の理解は不可欠。

□ 【重要】 〈文の要素〉を、【主語・(述語) 動詞・目的語・補語】と定義する。

この〈文の要素〉と、その〈並び順〉によって、英文は成立する。

□ 副詞は、並び順に縛られず、なくても英文は成立するので、文の要素には含まれない。

① Dr. Hawking was an excellent scientist with a lot of humor.  
 主語 (述語) 動詞 補語 副詞

「ホーキング博士は、とてもユーモアのある、卓越した科学者だった。」

② My father  painted  his white car  red  last week.  
 主語 (述語) 動詞 目的語 補語 副詞 「父は先週、自分の白い車を赤く塗った。」

□ 主語 (S) は、必ず名詞 (名詞句・名詞節)。日本語の「～は、～が」などにあたる。

□ (述語) 動詞 (V) は、日本語の「～する (動作)、～である (状態)」などにあたる。

主語の動作や状態、時制などを表す。助動詞や、not などの副詞も含めて考えるのが実践的。

動詞の意味と語法によって〈文の要素〉が決まる。これはつまり、〈文型〉が決まるということ。

□ 目的語 (O) は、必ず名詞 (名詞句・名詞節)。日本語の「～に、～を」などにあたる。

動詞の動作対象 (目的) となる名詞のこと。(内容的に、主語 = 目的語は成立しない。)

また、前置詞に続く名詞を〈前置詞の目的語〉という。

□ 補語 (C) は、名詞 (名詞句・名詞節) か形容詞 (形容詞句)。主語や目的語を「補う」役割。

主語を補うものを主格補語、目的語を補うものを目的格補語という。

(内容的に、①は主語 = 補語 (主格補語)、②は目的語 = 補語 (目的格補語) が成立する)

□ 副詞 (副詞句・副詞節) は解説 2 を参照。(①は付随、②は時を表す)。

## C 演習 3：基本問題 下線部の文の要素 (あるいは副詞) を答え、さらに全体を和訳しなさい。

1. I met an old friend at Tokyo station. ( )  
「 \_\_\_\_\_ 」
2. She was in bad health, but now she is much better. ( )  
「 \_\_\_\_\_ 」
3. This road leads to the city office. ( )  
「 \_\_\_\_\_ 」
4. I gave my brother my sneakers. ( )  
「 \_\_\_\_\_ 」

## 演習 3：解答・解説

英文は暗唱できるまで繰り返し音読すること。

1. 目的語「私は東京駅で古い友人に会った。」 ※ meet は人を目的語にとれ、「～に会う」などと訳せる。at Tokyo station は場所を表す副詞 (句)。本書では、to を除く前置詞に導かれる句は、原則、副詞句と考える。
2. (主格) 補語「彼女は体調が悪かったが、今ははるかによくなった。」 ※ be 動詞が補語をとるとき、内容的に主語 = 補語 (she = much better) が成立する (主格補語)。much は比較級を強調する副詞で、ここでは形容詞 better (well の比較級) を修飾し、much better 全体は形容詞句となる。なお、now は時を表す副詞。前置詞が

導く句 in bad health は場所を表す副詞句で、be 動詞に副詞句が続くときの be 動詞は「存在する」の意味で解釈するとよい。

3. 副詞 (句) 「(この道は市役所に導く→) この道は市役所に続いている。」 ※前置詞が導く、場所を表す副詞句。lead は「導く」。

4. (間接) 目的語「私は弟 (兄) にスニーカーをあげた。」 ※動詞 give は目的語を 2 つとれる。概して、「～に (主に人)」と訳せるものを間接目的語、「～を (主にもの)」と訳せるものを直接目的語という。

## D 演習4：標準問題 下線部の文の要素（あるいは副詞）を答え、さらに全体を和訳しなさい。

1. He showed his new friends his room. ( )  
「  
」
2. “It’s already seven. You should go home now.” ( )  
「  
」
3. I hear that she is not free this afternoon. ( )  
「  
」
4. My hobby is taking pictures of airplanes. ( )  
「  
」
5. One of my friends is going to study abroad next year. ( )  
「  
」
6. His talent for physics made him a great scientist. ( )  
「  
physics 「物理学」  
」
7. One good way to learn is to sleep well after you study. ( )  
「  
」

### 演習4：解答・解説

英文は暗唱できるまで繰り返し音読すること。

1. 目的語「彼は新しい友達に自分の部屋を見せた。」  
※動詞 show「見せる」は目的語を2つとれる。ここでは、下線部は「～に」にあたる間接目的語、his roomが「～を」にあたる直接目的語。
2. 副詞『もう7時です。あなたは家に帰るべきですよ。』  
※場所を表す副詞。〈前置詞＋名詞〉は副詞句となるので、例えば go to schoolはto schoolの部分が副詞となる。homeは、この前置詞 to の意味がすでに含まれている語で、<sup>x</sup>go to home とは言わない。now は時を表す副詞。
3. 目的語「この午後、彼女は暇じゃないと聞いている。」  
※thatが導く節は、動詞 hear の目的語。目的語は必ず名詞なので名詞節。thatは「～ということ」の意味の接続詞。that節の中にも節があるので、主語・動詞・目的語・補語などの文の要素が、入れ子状態で入ることになる。ここでは、she主語、is not動詞、free補語・形容詞が文の要素、this afternoonが副詞句。
4. 補語「私の趣味は飛行機の写真を撮ることだ。」  
※be動詞に続く名詞や形容詞は、主語の内容を補う補語で、〈主語＝補語〉が成立する。このtakingは動詞が名詞の形をとる動名詞。動名詞にも動詞の働きは残るので、pictures of airplaneはtaking (take)の目的語。
5. 動詞「私の友人の一人は、来年、留学する（海外で勉強する）予定だ。」 ※動詞は、例えばwillなどの助動詞や、否定のnotなどを含めて考えるとよい。ここでは下線部全体で「勉強する予定だ」の意味と解釈する。なお、動詞の前 One of my friends「私の友人の一人」は主語（必ず名詞）、abroad「海外で、海外へ」は場所を表す副詞、next yearは時を表す副詞（句）。
6. 補語「(彼の物理学の才能は、彼を偉大な科学者にした→) 彼は物理学の才能によって、偉大な科学者になった。」 ※動詞 (V) make は、目的語 (O) と補語 (C) をとり、SVOCの形をとれる。Cは目的格補語となり、内容的にO = C（ここではhim = a great scientist）が成立する。補語は名詞か形容詞だが、ここでは名詞。なお、for physicsは〈前置詞＋名詞〉なので本書で定義する副詞句（〈場所・方向〉）だが、直前の名詞 talentを修飾する形容詞句と解釈したほうがわかりやすいかもしれない。「形容詞は名詞を修飾する」という原則がわかっているならば、品詞の解釈にこだわりすぎる必要はない。修飾・被修飾の関係がわかることが大切なのである。
7. 主語「学ぶための1つのよい方法は、勉強した後によく眠ることだ。」 ※主語と目的語は必ず名詞だが、その前後にさまざまな修飾語句がつくことがある。ここでは主語の中心となる語は名詞 way「方法」で、one、good、to learnはどれも wayを修飾する形容詞（句）と考える。

年 組 番 氏名

C /4

検印

実施日 年 月 日

D /7